

インターネット環境を利用した発達障害児相談システムの開発

(指導教員 世木 秀明 助教授)

世木研究室 9610036 柿沼 武志

1.はじめに

現在、我が国の障害者福祉や教育の分野では発達障害の早期からの療育・教育が各地域で盛んに行われるようになってきている。発達障害児を持つ保護者や指導者が専門機関に相談する場合、どの様な点について相談すれば良いかが不明確であったり、電話やFAXのみでは適切に説明することが出来ないという問題がある。このようなことから、専門機関に相談する前に保護者や指導者が簡易な方法により客観的に障害や発達の評価が出来たり、障害の程度や発達の遅れについて相談できるシステムが望まれている。

一方、インターネット環境の爆発的な普及に伴い、比較的容易に家庭のパソコンをインターネットに接続し、様々なホームページを閲覧し、アンケート調査に答え、オンラインショッピングをすることになったことが一般的になりつつある。

このような現状をふまえ、昨年度の卒業研究でインターネット環境を利用して発達障害のある子供を持つ保護者や指導者を対象とした発達障害児相談システムが試作されその有効性が確かめられている。しかし、試作された相談システムは、「乳幼児、学齢児に対する相談項目のみで幅広い年齢の発達障害に対応していない」、「相談結果をテキストファイルに保存するためデータの参照や管理が煩雑になる」などの問題点があった。

本研究では、試作された相談システムの問題点を改良し、さらに使いやすいシステムの開発を目的としている。

2.発達障害

発達障害とは、知的・身体的・情緒的発達などの成長に遅れや障害を持つ事を言う。具体的には、精神遅延、自閉症、ダウン症、てんかん、広汎性発達障害、学習障害、聴覚障害、視覚障害、言語障害、肢体不自由、病弱・虚弱、自閉症傾向などがある。

3.本システムの相談内容と概要

本研究で開発している相談システムのプログラムは、データベースソフト PostgreSQL および、HTML 埋め込み型データベース制御スクリプト PHP により構築されており、一般的なUNIXサーバー上で動作する。図1に発達障害児相談システムのイメージ図を示す。

相談者は、一般的なブラウザを用いてアンケートに答える。サーバー側では相談者のアンケート結果をデータベースに保存すると共に、推定した発達年齢や適切な指導指針を相談者に提示する。また、成人を対象としたアンケートでは過去のアクセス集計や、あらかじめ調査したY市でのアンケート結果が参照出来る。図2に成人版アンケート画面の一例を示す。成人版では「アクセス集計」、「Y市の結果」の項目があり、これをクリックするこ

とで別ウィンドウが開き、過去のデータをグラフにより参照することが出来る。さらに、データベースに保存された相談結果はLAN経由でWindows上から接続し、参照することが可能である。このため、UNIX環境の操作に詳しくない専門家でも容易にデータを参照し相談者に対して的確なアドバイスを行うことができる。

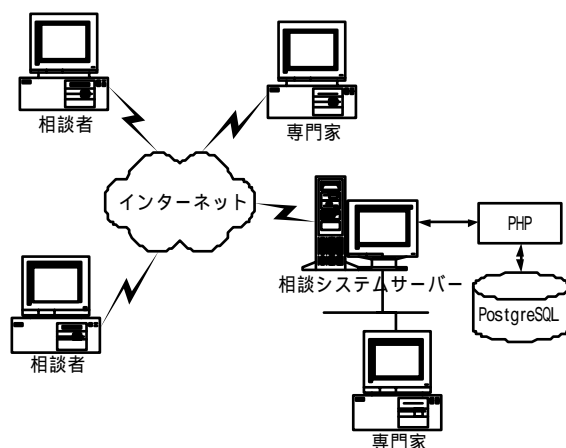


図1 発達障害児相談システムのイメージ図

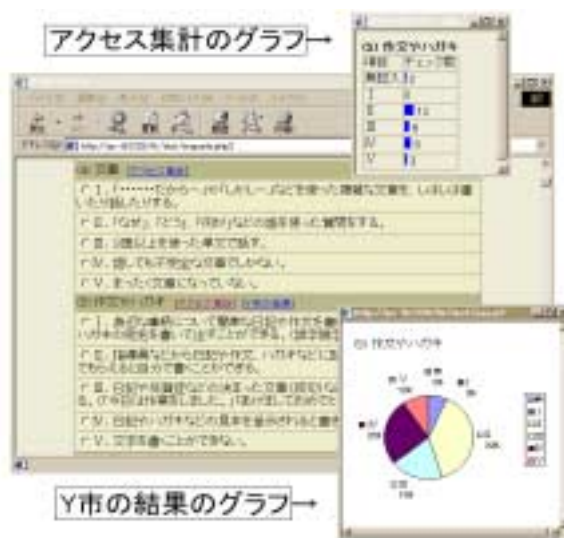


図2 成人版のアンケート画面例

4.まとめ

本システムは、相談結果のデータ管理にデータベースを利用し、このデータをWindows上から利用可能にしたことで、相談結果の参照や集計、検索などが容易に行えるようになった。また、成人に関する項目を追加したことで、より多くの発達障害に関する相談に対応することが可能となった。このような相談システムは、場所や時間的な障害を取り除き、発達障害に関する相談や情報提供が可能であるため有用なシステムであると考えられる。